

人づくり国づくり【第1037回】

2026年10月5日 14面記事

カテゴリー：論説・コラム



不登校は休む時 エネルギーを蓄えて

森川 晃 NHK学園高校校長

怠けていると言われることもあった不登校ですが、理解が進み、さまざまな学びの場が整いつつあります。学び方が個別最適化している通信制高校を選ぶ子どもが増えるのは自然なことだと思います。

起立性調節障害などによる体調不良で、朝から学校に行けない子どもや家から出ることが難しく、保護者と一緒でないと登校できない子どももいます。

芸能活動など自分のやりたいことや夢のために時間を使いたい子どももいます。全日制ではできないことに集中するため、通信制を選ぶのです。それぞれの事情の中で自分の時間を使いながら学ぶ子どもが増えています。

副校長を務めたことがある「学びの多様化学校」からも、卒業生がNHK学園に入学してきます。エネルギーを蓄え、大学進学を果たすなど自信を付けていきます。枠に当てはめるのではなく、その子の長所を生かし、個性をうまく伸ばすことが大切だと感じています。子どもたちの可能性は無限大です。

本校には学級担任はもとより、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭がいます。丁寧に相談を受けられる体制を整えています。経済的に厳しい家庭には、スクールソーシャルワーカーが福祉関係とつながり、支援することもあります。全国の拠点校にもカウンセラーを配置しました。

保護者との関わりでは、精神科医師の協力を得て、話し合いの場を設けたり、講演していただいたりしています。オンラインシステムでの通知や一斉メール配信、チャットでの質問の受け付け、オンラインでの三者面談なども行っています。

一方、子どもたちや保護者へのお知らせが情報過多になっている部分もあります。しかし、連絡が頻繁につくとは限らず、卒業後の進路や生活について、全てをつかめているわけではありません。卒業した後も関わっていきたいと思いますが、どうしても限定的になってしまうのが課題です。

不登校は悪いことではありません。保護者の方々には、子どもたちが休める居場所を見つけてほしいと思います。逃げていい、休んでいいというゆとりを持つことも必要です。

誰もが、素晴らしいもの、原石を持っています。自分の得意なところで輝き、しっかりと生きてほしいと願います。自己肯定感を持ち、未来を開く豊かな社会人になってほしいものです。

そのように生きる子どもたちが増え、認めてもらえる社会になれば、子どもたちに対する見方はさらに変わっていくのではないのでしょうか。

もりかわ・さとる 東京学芸大卒。東京都公立中学校教諭、校長などを歴任。「学びの多様化学校」の八王子市立高尾山学園副校長も務めた。令和5年度から現職。67歳。